

いぶ少なくなり、源流のようである。小滝、ナメが繰り返す中をなおも登る。

F 8 八トイ状を越える。水も無くなってきた。

最後の二俣を右に入り、すぐヤブこぎ。二〇分程で、踏跡のある尾根に出た。

〔タイム〕 クモ沢出合(一二::四五)

↓尾根(一四::三五)

## ワサビ沢右俣

レ

一九八六年八月二五日

一二時三〇分、右俣の下降を開始する。この沢もやはりナメである。黒みを帯びた花崗岩で、ちよっと硬

質。このナメはほとんど途切れることなく続き、途中にポツリポツリとナメ状の滝がある。

花の美しい樹木②

ホオノキ(モクレン科)

春、木々の間に白く大きな花をつけ、モクレン科特有の芳香を放っているが、残念ながら、私が摺上川流域を訪れるのは夏であり、ここで花に出会ったことはない。

ホオノキの葉は大きく、長さ二〇〜四〇センチにもなる。風車のように輪状に葉をつけるので、夏でもすぐ判別できる。

材質は柔らかくて、細工しやすいのも大きな特徴である。山形県の有名な笹野一刀彫の材料は、このホオノキである。そのほかに、下駄の材料などにも使われている。

(大西)

帰りの時間が気になるので、どん  
どんとぼす。特記することもなく、  
なんなく二俣へ出た。あとはクモ沢  
を下降して、烏川の長い長い帰路へ

## ワサビ沢左俣

一九八六年八月二五日

朝七時三〇分に、福島を出発。今  
日は機動力(´)バツグンのバイクで  
ある。烏川林道の終点までバイクで  
行き、そこから烏川を遡行してワサ  
ビ沢に入る予定である。

烏川林道は、八月四日の台風一〇  
号のツメ跡があちこちにあり、林道  
には落石がゴロゴロ。沢を渡るとこ  
ろは、流れ出た土石でジタジタ。そ  
れでも、バイクはスイスイと通りぬ  
けてゆく。しかし、林道終点の約一

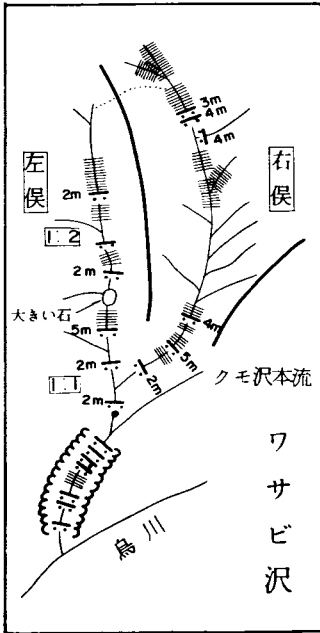
とつく。(記・・・)

「タイム」 下降開始(一二:三〇)↓

下降終了(一二:三二五)

キロ手前で、倒木が林道を塞いで、  
万事休す。バイクを置いて歩く。

烏川林道終点  
からは、烏川左  
岸の歩道を利用  
して歩くが、途  
中より道がわか  
らなくなり、本  
流を遡行する。  
途中、本流で  
釣をしている人



に会う。本日の我々の目的を言って  
先に進めさせてもらおうとすると、  
「福島登高会」を知っているではない  
か。そればかりか、この摺上川流域  
を調査していることまで知っており、  
「魚はこの沢にいるかね」と聞かれ  
る有様。そんなことで、なんのトラ  
ブルもなく、先に進ませてもらう。  
烏川本流を歩き始めて一時間四〇  
分、もう一一時四〇分になっている。  
やっこのことでクモ沢出合である。